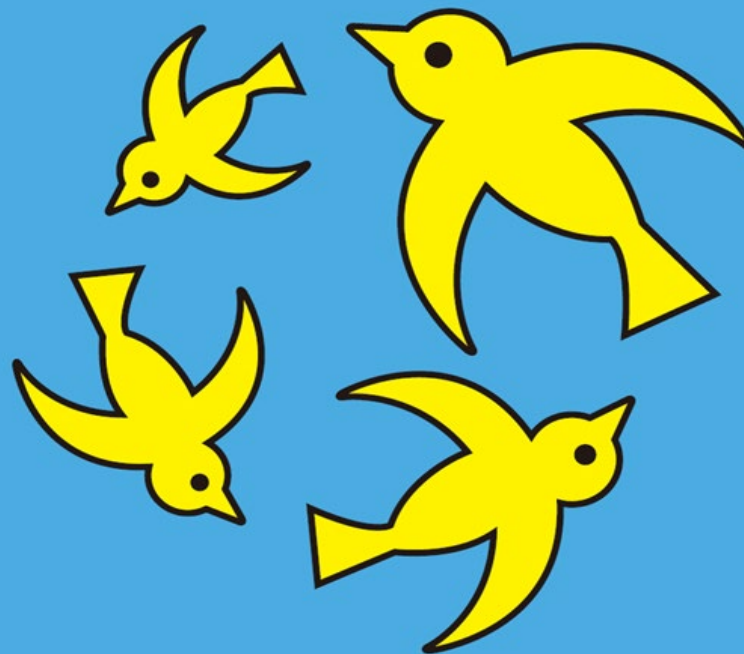


新しい学習指導要領

生きる力

学びの、その先へ



第4回において各委員から示された課題意識について

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（平成28年12月中央教育審議会答申）

第1部 第4章 学習指導要領の枠組みの改善と「社会に開かれた教育課程」

2. 学習指導要領の改善の方向性

（1）学習指導要領等の枠組みの見直し

（「学びの地図」としての枠組みづくりと、各学校における創意工夫の活性化）

- 新しい学習指導要領等に向けては、以下の6点に沿って改善すべき事項をまとめ、枠組みを考えていくことが必要となる。
- ① 「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）
- ② 「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）
- ③ 「どのように学ぶか」（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）
- ④ 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」（子供の発達を踏まえた指導）
- ⑤ 「何が身に付いたか」（学習評価の充実）
- ⑥ 「実施するために何が必要か」（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）

参考：学習指導要領（平成29年公示）前文・総則の構成と改訂事項

何ができるようになるか

何を学ぶか

どのように学ぶか

何が身に付いたか

子供の発達を
どのように支援するか

実施するために何が必要か

【前文】

- ・ 教育の目的・目標
- ・ 豊かな人生と持続可能な社会の創り手の育成
- ・ 社会に開かれた教育課程
- ・ 学校段階等間の接続と小学校学習指導要領 など

【総則】

第1 小学校教育の基本と教育課程の役割

- ・ 生きる力の育成に向けた資質・能力の3つの柱
- ・ カリキュラム・マネジメントの充実 など

第2 教育課程の編成

- ・ 学校の教育目標
- ・ 学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）
- ・ 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力 など

第3 教育課程の実施と学習評価

- ・ 単元等のまとまりごとの主体的・対話的で深い学び、見方・考え方
- ・ 学習評価（指導と評価の一体化、妥当性・信頼性の確保）
- ・ 言語活動（言語能力の育成）
- ・ コンピュータ等の情報手段活用（情報活用能力の育成）

第4 児童の発達の支援

- ・ ガイダンスとカウンセリングによる発達の支援
- ・ 生徒指導、個に応じた指導、キャリア教育
- ・ 障害のある児童生徒、日本語指導、不登校児童生徒への配慮

第5 学校運営上の留意事項

- ・ 校務分掌に基づく役割分担と連携
- ・ カリキュラム・マネジメントと学校評価や各種全体計画との関連付け

学習指導要領総則

第4回において各委員から示された課題意識

【前文】

- ・教育の目的・目標
- ・豊かな人生と持続可能な社会の創り手の育成
- ・社会に開かれた教育課程
- ・学校段階等間の接続と小学校学習指導要領 など

【総則】

- 第1 小学校教育の基本と教育課程の役割
- ・生きる力の育成に向けた資質・能力の3つの柱
 - ・カリキュラム・マネジメントの充実 など
- 第2 教育課程の編成
- ・学校の教育目標
 - ・学習の基盤となる資質・能力
(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力)
 - ・現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力 など
- 第3 教育課程の実施と学習評価
- ・単元等のまとまりごとの主体的・対話的で深い学び、見方・考え方
 - ・学習評価（指導と評価の一体化、妥当性・信頼性の確保）
 - ・言語活動（言語能力の育成）
 - ・コンピュータ等の情報手段活用（情報活用能力の育成）
- 第4 児童の発達の支援
- ・ガイダンスとカウンセリングによる発達の支援
 - ・生徒指導、個に応じた指導、キャリア教育
 - ・障害のある児童生徒、日本語指導、不登校児童生徒への配慮
- 第5 学校運営上の留意事項
- ・校務分掌に基づく役割分担と連携
 - ・カリキュラム・マネジメントと学校評価や各種全体計画との関連付け

- 豊かな人生と持続可能な社会の創り手の育成は引き続き重要。変化する今後の社会像をどう捉え、その中で学校の姿をどう構想するか。

- 学習者である子供たちの全人的な発達を支え、資質・能力の育成を保障する観点から、学校における教育課程をどのように構想するか。
 - ① 幼児教育から高等学校卒業段階までの発達（認知的発達、身体的発達、社会情緒的発達、キャリア発達）をどのように支えるか。
 - ② 教育課程全体の学び、各教科等の学びを通して、子供たちにどのような資質・能力の育成を目指すか。
 - ③ 子供たちが学ぶ内容を、どのような原理・方法で選択・組織するか。
 - ④ 子供たち一人一人の特性等を考慮した教育課程の個別性と、それらを包摂する学校の教育課程との調整をどのように図るか。

- 各教科等の目標、内容、方法、評価の在り方をどのように考えればよいか。
 - ① 各教科等の目標（見方・考え方、資質・能力の3つの柱）について改善すべき点はあるか。
 - ② 各教科等の内容を、どのような原理・方法で選択・組織するか。
 - ③ ①、②を効果的に育成するための方法（教材、指導方法、学習評価）には何があるか。

- これまでの学習指導要領（①学習指導要領改訂の経緯、②総則と教科等との関係、③改訂のコンセプトや用語の周知）を振り返ると、どこに課題があったのか。
- 現行学習指導要領の実現に向けて、学習指導要領の改善とそれを取り巻く諸条件の改善について、どのような方向が考えられるか。
- 学習指導要領の実現に向けた政策形成・展開の在り方をどのように考えればよいか。
 - ① 学習指導要領の用語の定義や伝え方にどのような工夫が考えられるか。
 - ② 教育委員会、学校にはどのようなことが求められるか。
 - ③ 教育課程の編成・実施に際しての条件整備をどのように考えるか。

○ 我が国が直面するカリキュラムのリデザインとエゴシステムの確立に向けて諸外国はどのような戦略をとっているのだろうか。国内に参考となる知見はあるか。

○ 現行学習指導要領の改訂を提言した中教審答申以降の国の教育課程行政を取り巻く提言にはどのようなものがあり、それらは相互にどのような関係性を持っているのか。

何ができるようになるか

何を学ぶか

どのように学ぶか

何が身に付いたか

子供の発達を
どのように支援するか

実施するために何が必要か